

プレキャストコンクリート製品の設計と利用に研究委員会議事録(案)

日時： 平成 19 年 7 月 10 日 17:30～19:30

場所： 東北学院大学土樋キャンパス、8号館第3会議室

出席者：万木、国府、北辻、月永、中田、石川、内田、梅村、衣川、金子、川上、佐々木、白石、竹中、伊達、田高、西宮、新田、濱田、藤田、星田、松岡、松田、松山
(敬称略)

配布資料

資料-0：第1回全体委員会議事次第

資料-1：「プレキャストコンクリート製品の設計と利用に研究委員会(JCI-TC071A)」
万木委員長

資料-2：委員間のスケジュール等

資料-3：「プレキャストコンクリート製品の設計と利用に研究委員会(JCI-TC071A)」
WG-1(設計方法WG活動方針・計画 久田幹事

資料-4：WG2(実態調査WG) 中田幹事

資料-5：WG4(リサイクル材等利用WG)活動方針・計画 北辻幹事

資料-6：「プレキャストコンクリート製品の設計と利用に研究委員会(JCI-TC071A)」
委員名簿

1. 委員長挨拶

万木委員長挨拶の後、資料-1に沿って趣旨説明がなされた。資料の補足は以下の通り。

- ・WG3(技術者育成)は現状でPending、また、委員会予算の関係から一部の委員については、通信委員という形をお願いしている点をご理解いただきたい。
- ・委員全員の自己紹介

2. 審議事項

1) 委員会組織について

- ・星田委員、WG2からWG1に変更希望、承認

2) 北辻幹事より、資料-2に従い、委員会スケジュールについての説明があった。

- ・本委員会は、19年度の研究委員会として採択、活動期間は2年間
- ・予算は19年度：150万、20年度：200万、
- ・委員会の義務として、報告書の作成、シンポジウムの開催、JCI年次大会で報告
- ・全体委員会は年3回予定、第2回を10月上旬、第3回を来年2月に開催する予定
- ・各ワーキングは年5～6回、幹事会5～6回
- ・来年の2月に第1回シンポジウムを予定(義務はなし、研究発表会および資料収集の意味合いとして)
- ・最終年度5～6月(最終報告となる予定)
- ・来年のJCI九州でも研究員会の開催の用意あり。
- ・製品会社の方は旅費を支給できないので、ご了承ください。

3) WG1の活動方針について、久田幹事に代わって北辻幹事より説明がなされた。

- ・日本のプレキャスト製品のシェアはなぜ13%しかないのか、その理由がどこにあるのかを考える。欧米の調査をしたい。

- ・現状のプレキャスト製品の設計方法は許容応力度法が用いられているが限界状態設計法を適用しているのかを検討する。また、小断面でも大丈夫か？
- ・最終的には設計方法の指針を作成。
- ・1年面は問題意識を調査したいので、製品会社の方にはぜひご協力いただきたい。

4) WG2(実態調査)の活動方針について、資料-4を基に中田幹事より説明がなされた。

- ・まず現場の話を吸い上げることから始める。
- ・Pcaは土木と建築の種々の考え方が入っている。設計方法とPca製作との連動など、不具合が生じている例もあるようだ。12月からアンケートを作成、年度内に収集、その後分析、1年以内を目処に実態を把握したい。
- ・梅村委員の意見として：製品は建築と土木の違いがあるので、すみわけをする必要がある。特に土木は高炉を使用しているので、養生方法によって品質のばらつきが出るのではないか？不具合事例を集めて、WGを横断的に設計を考えていく必要がある。施工・製造の問題なのか(WG2)、材料的な問題なのか(WG4)、設計的な問題(WG1)なのかを考える必要がある。
- ・国府顧問の意見として：
 - 土木用JISと建築用設計法に区分があることをはっきり認識しておく必要がある。
 - 混和材は通常の工場製品には使われていないのが実態であるが、実はまったく使われていないわけではない。特定PJ、たとえばTTB(東京湾横断道)などでは温度抑制の意味で高炉が使用されている。このようなことなどを踏まえて調査対象を考えないといけない。そう意味ではゼネコン等の協力が必要。
- ・梅村委員：高炉を使用した場合には、熱膨張係数の違いなど、骨材と養生関係の問題があるので、その実態も調査する必要がある。
- ・万木委員長：最初の調査はWG1とWG2共同でお願いしたい。
- ・川上委員：どういう材料がどういう製品に使われているかも調べていただきたい。
- ・万木委員長：各委員の方にアンケート項目など提案いただきたい。

5) WG4(リサイクル材等の利用)について資料-5を基に北辻幹事長より説明がなされた。

- ・プレキャストは、量を必要としない、取替えが可能などの点でメリットがあり、実は低品質骨材を利用しやすい
- ・平成20年には6億トン出るというシミュレーションもあり、最終目標としては、リサイクル材に対する使用法を提案したい。

3. 今後のスケジュール

1) 万木委員長より、今後の予定について以下の話があった。

- ・シンポジウムの内容についてはどのWGがなにを担当するかを幹事会で決める。
- ・幹事会で全体の動向をきめたい。
- ・次回以降はWG主体としたい。

以上

記録 石川雅美